



# 名事研=ユ=ス

No.148

発行日 平成26年6月9日

## 共に創ろう！名古屋の学校事務 平成26年度事業が始まります

### 名古屋の学校事務をデザインする

会長 加藤 豊子  
(名城小学校)

今、このテーマの意味を特に感じています。名古屋の学校事務をより良くしていくためには何をしなければいいのか・・・今までの課題を通して、私たちは何に気付くことが大事なのか。まずは、目を向けて関心を寄せることから解決への一歩が始まります。

私たちが、なぜ『学校』事務職員なのかをあらためて考える時なのかもしれません。学校教育に関わる事務職員として、教育と事務をつなぐ役割を果たし、学校事務を学校教育の根幹におくことができるようになったならば、学校事務職員の職としての意義がさらに深くなっていくのではないのでしょうか。目的意識を持つと自分自身が建設されていきます。主体的に解決していく力が身についていきます。

平成二十六年度の「名古屋の学校事務のグランドデザイン」の年次テーマは、「学校事務の高度化」です。

今より少し、もう少しという視点で、一緒に悩み考え、そして答えを創り出していきたいでしょう。



### 平成二十六年度名事研活動について

副会長 加島 道代  
(小碓小学校)

名事研は名古屋の学校事務のグランドデザイン（以下、GD）を策定し、今年度で四年目となります。GDを受け、引き続き「名古屋の学校事務をデザインする」夢に向かうことや「子のために」をテーマに、「めざす学校事務像」や「めざす学校事務職員像」に向けて、これからの学校事務と事務処理の体制を考えていきます。

今年度のGDでは、常に改善していく仕組みを作っていくために、年次テーマ「学校事務の高度化（評価システムの構築）」に取り組みます。事業を進めるにあたり、名事研事業の「見える化」を図るとともに、事務局や専門部間の連携強化し、世話係や会員の協力を得て、充実したものとなるよう努めます。

現在、市教委では次期名古屋市教育振興基本計画を策定中です。この策定では、県費負担教職員の権限移譲が最大のポイントとなります。変化を恐れず、変化を的確に捉え、自ら考え行動していくときです。広い視野で校内あるいは学校間連携において実践し、区事務研究会や世話係会で実践を共有し深めましょう。実践の積み重ねが、名事研の原動力となり、GDのめざす名古屋の学校事務につながっていくと信じています。

# 定期総会・講演会

四月二十三日（水）に名古屋市教育センターで平成二十六年定期総会が行われ、平成二十五年事業報告・決算報告、平成二十六年事業計画・予算案等が承認されました。

事業計画では、年次テーマ「学校事務の高度化（評価システムの構築）」に取り組むことで、常に改善していく仕組みを作っていくこと。また、その事業を進めるにあたっては「見える化」を常に意識しつつ、事務局と専門部との連携を強化し、世話係や会員との協力を得ながら行っていきたいということでした。また、定期総会の最初に新規採用者のあいさつがあり、今年度は九名の仲間が新たに加わってくれました。将来の名古屋の学校事務を担う中心として育ってほしいと思います。

定期総会に先立って行われた講演会では、名古屋市教育センター所長 伊藤久仁氏を講師に、「学校事務職員に期待すること」をテーマにお話をいただきました。

教育活動を見て内容を知り、コミュニケーションを取ることで、学校運営に参画していただき、教育職の教員に対して、行政的な感覚を教えてほしい。また、「木を見て森を見ず」ということわざのように、教員はややもすると、子どもに近すぎて、また、子どものためならということが先立ちがちになることを、事務職員として客観的に見てほしい。そしてそのことを、学芸会を一例にとつて、会話形式でのやりとりでお話をいただきました。

最後に、「協働」についてのお話がありました。協働について、学校内では、教員や養護教諭、事務職員という複数の主体者が、ひとつの目的に対して働くことですが、事務職員は学校に一人であるが、学校間連携という複数で構成される組織、そのチーム力を高めることで、協働という意味もさらに深まってくるのではないかと感じました。



## 専門部紹介

よろしくお願ひします！

### 事務局

事務局長 山内 健嗣

平成十二年度より財務会計システムの稼動が始まり旅費システム等、各種システムが順次稼動しました。

その他にも学校長への諸手当認定権限の移管や学校間連携の実施と、この約十五年間に様々な変化を経験してきました。

その都度、現状にあった仕組みを研究し難局を乗り越えてきました。

今後、我々を取り巻く環境が大きく変化しようとしています。

こういう時期だからこそ、名事研の原点にかえり、会員の皆様とよりよい名古屋の学校事務について一緒に考えていきたいと思ひます。

### 研修部

研修部長 土井 裕子

「研修とは「成長のきっかけ」であり、研修体系とは、それらをつなぎ合わせた「成長物語」です。」昨年度の研究集録の、発表部の一文です。

研修部では、研修会の実施やSOLα（ソラ）の提供を行います。研修手法や内容だけでなく、振り返りなども含め、研修が皆様一人ひとりの「成長のきっかけ」となるよう、実施・検討を進めます。

今年度も部員一同、皆様と一緒に、充実した研修を作っていきたいと思ひます。よろしくお願ひします！

### 研究部

研究部長 近藤万友美

学校間連携の実施も、全市で行われるようになって四年が経過しました。それぞれのブロックでの活動も定着してきた頃と思ひます。組織を活性化していくためには、どのような働きが必要とされるのか、事務職員がそれぞれの果たす役割を含め、いままでの研究成果を基に、会員のみならずと共に取り組んでいきたいと思ひます。

また、学校を取り巻く変化についても、考えを深めながら研究を進めていきます。よろしくお願ひします。

### 情報部

情報部長 則武 真雄

学校事務支援センターが設立され、情報部の役割も見直す時期にきています。これまで行ってきた事業の精選とともに、どこに力を入れて、どのように会員の皆様に還元していくのか。会員への情報発信や会員支援のあり方など、会員の皆様と協力して模索していききたいと思ひます。

また、学校を取り巻く変化についても、考えを深めながら研究を進めていきます。よろしくお願ひします。

### 編集後記

五ヶ年計画の四年目がスタートし、今年度の計画の推進とともに、今までの振り返りやこれからの取り組みについても考える時期になりました。会員の皆様と共に創る組織として、名事研の活動が行えるようにしていきたいと思ひます。

専門部では現在も部員を募集しています。一人でも多くの方と協力して活動していきたいと思ひます。興味のある部があれば、直接各部長まで連絡してください。お待ちしております。